



アニュアルレポート中国 2013



a n n u a l r e p o r t

建築家憲章

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承発展させ、地球環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。

（創造行為）

建築家は、高度の専門技術と芸術的感性に基づく 創造行為として業務を行います。

（公正中立）

建築家は、自由と独立の精神を堅持し、公正中立な立場で依頼者と社会に責任を持って業務に当たります。

（たゆみない研鑽）

建築家は、たゆみない研鑽によって自らの能力を高め役割を全うします。

（倫理の堅持）

建築家は、常に品性をもって行動し倫理を堅持す。
社団法人日本建築家協会（J I A）会員は上記憲章のもとに集う建築家であり、J I Aは会員の質と行動を社会に保障するものです

CONTENTS

■2013 年度 中国支部 総括

支部長 山田 暁

■第8回 中国支部大会

「J I A中国支部建築家大会2013 in 防府」

・実行委員長コメント

大会実行委員長 田中輝幸

・内容報告

■第5回 J I A中国建築大賞2013

・審査報告

実行委員長 大石雅弘

・総評

審査委員長 内藤廣（建築家）

・受賞作品紹介

■活動報告

岡山地域会 大石雅弘

広島地域会 垂井俊郎

山口地域会 三村夏彦

島根地域会 原 浩二 江角俊則

鳥取地域会 塚田 隆

卒業設計コンクール 山田孝延

環境×建築連続セミナー 大角雄三

■J I A中国支部会員リスト

■交流部会会員リスト

2013年度 中国支部 総括



社団法人日本建築家協会中国支部長 山田 暁

我々所属の中国支部は全国10支部の中でも、東西南北に多様な文化を有した、中国5県からなる支部である。近年、県単位の5地域会において活発な地域会活動がなされており、公益社団法人としての役目を果していると自負している。支部の各事業としては、地方ならではの建築家としての考えに立ち、我々の住む地域に役立つような貢献が出来る様に活動を行ってきている。今までもそうだったが、今後とも一層、社会に向けての活動にエネルギーを使って行く所存だ。

また、新しく出来た準会員制度の整備を図り、組織の見直し、充実に向けてスタートをきった年度でもあった。

中国支部の具体的活動としては

- 「第5回 JIA 中国建築大賞 2013」の実施
- 山口・防府における「JIA 中国支部建築家大会 IN 防府 2013」の実施
- 中国支部災害対策委員会の充実及びJIA 西日本災害対策会議の立上
- 四国支部との共同事業の環境×建築 連続セミナー」の開催
- 広島県「魅力ある建築物創造事業」への連携協力

等々がある。

まだ見ぬ仲間たちへ

「全国高等専門学校デザインコンペティション 2013in 米子」に芦原会長の代理で出席しましたが、建築を学ぶ若い人たちのエネルギーに触れて感じるものがありました。中国支部は新会員制度（準会員、協力会員）にもとづき、建築設計活動にかかわる多くの方達と共に、公益活動を行う事が出来たらと考えています。多くの仲間を募っていきますので、ぜひご参加をお願いします。公益事業を行うと同時に、市民活動とも連携をしていきます。

第8回J I A中国支部建築家大会2013

in 防府

■ 実行委員長コメント



大会実行委員長 田中 輝幸

J I A中国支部大会は2006年度から始まり、第5回から2巡目に入り、山口県での開催も2回目になります。「歴史・文化・まち」を大会テーマに掲げ防府市で10月25日・26日の2日間にわたって行われました。

防府市は、奈良時代には周防国の国府が置かれた都市であり、平安時代には菅原道真を祀った防府天満宮が建設され、以来日本三天神のひとつとして賑わいました。江戸時代からは海岸一帯の塩田での製塩業が盛んで商業都市として栄えました。市内には周防国分寺、阿弥陀寺、防府天満宮、英雲荘、毛利博物館などの歴史的建造物があり、山口県内の国宝の半数は防府市にあります。山口市が「西の京」と言われているのに対し、防府市は「西の奈良」と言われています。このような歴史・文化のまち防府市での開催であります。

J I Aは今年度から公益法人に移行しました。中国支部大会においても一般市民の方の参加が望まれます。建築家にも一般市民のみなさんにも興味を持てる旧毛利家本邸や英雲荘を題材にした講演やエクスカーションをプログラムに組み込みPR活動を行いました。市民のみなさんにも多数参加いただき最低限の成果は出たのではないかと思います。

2日間、真面目に聴いていた講演やデザインフォーラム、和気あいあいの懇親会、やや疲れ気味の2日目の見学会など市民、会員、交流部会のみなさんと楽しく研修し、多くの方と交流を深め収穫の多い大会になりました。みなさん、ありがとうございました。

遠路足を運びご参加頂きましたみな様に深く感謝申し上げますと共に、また次回の大会に期待をよせまして、お礼の挨拶とさせていただきます。



■ 大会概要

日時：2013年10月25日（金）、26日（土）
会場：（公財）山口・防府地域工芸地場産業振興センター
愛称：デザインプラザ HOFU
後援：山口県
防府市
（一社）山口県建築士会
（一社）山口県建築士事務所協会
（一社）日本建築学会中国支部
（一社）日本建築構造技術者協会中国支部
（公社）日本建築積算協会中国四国支部

■ プログラム

25日（金）	
13:00	開会
13:20-14:30	J I A新人賞受賞記念講演 「建築が生み出す環境について」
14:45-16:00	中国建築大賞2013入賞発表
16:10-17:30	講演「地域と建築」
18:30-20:30	懇親会
26日（土）	
9:00-9:30	交流部会タイム
9:45-11:00	デザインフォーラム
11:10-12:20	講演「毛利家と重文旧毛利家本邸」
12:20-12:30	閉会
13:30-16:00	エクスカーション 「毛利博物館、毛利庭園、英雲荘」

■ J I A新人賞受賞記念講演

基調講演「建築が生み出す環境について」
建築家 前田 圭介 氏（広島地域会）

J I A新人賞をはじめ日本建築学会作品選奨やARCA S I A（アジア建築家評議会）建築賞ゴールドメダルなど数多くの建築作品賞を受賞された前田圭介氏の記念講演です。受賞作品である「アトリエ・ビスクドール」やこども環境学会賞デザイン賞「Peanuts」の作品についての説明を交えながら講演をいただきました。外部環境を室内空間に組込む高度な計画力と設計力は高い評価を得ておられます。

このような前田さんですら最初はなかなか受賞に縁がなかったと聞きました。ねばり強く継続していくことの大切さを学ぶことができました。地元の福山でも意欲的に活動しておられ、中国支部が誇るすばらしい建築家です。今後の益々の活躍を期待しています。

■ 講演

「地域と建築」
建築家 内藤 廣 氏

中国支部大会には毎回お越し願っている内藤廣先生の地域と建築についての講演である。今回は、戦後の建築家は焼け野原を頭に刻み込んでいるが、現代の建築家の原風景は東日本大震災ではないかと言われておられ、30年後の日本の人口は半分になるが、東京の人口は変わらず地方の人口が減る。また、創造しデザインして実現化するまでに地方の方が都会よりエネルギーが必要である。しかしながら、社会が抱えている問題は都会では見えにくく、建築家は様々な問題に応える能力を持っており、地域の建築家がその人々と深く関わりながら課題に取り組む必要がある。内藤先生の建築家に対する思いを熱く語られた。

■ 懇親会

会場 アパホテル

大会初日のプログラムも夕暮れ時には終了し、市内のホテルに会場を移して懇親会が開催されました。各県の地酒を持ち寄っていただき、大変和やかな雰囲気の中おおいに盛り上がりしました。中締め後も多くの方が夜の街へ出かけて二次会、三次会と遅くまで熱い語らいが続き親睦を深めました。



前田圭介氏 講演



内藤廣氏 講演



大会風景



懇親会

■ デザインフォーラム

コメンテーター 出江 寛 氏 (JIA 前会長)
倉森 治 氏 (JIA 名誉会員)
山田 暁 氏 (JIA 中国支部長)

プレゼンター 田尾 繁太 氏
長野 英彦 氏

中国支部大会2日目、デザインフォーラムが開催されました。プレゼンターは、田尾繁太氏、長野英彦氏の2名の方に登場していただきました。田尾氏は下関の市街地に建つ質店舗作品について、長野氏は個人住宅作品と建設途中の木造複合公共施設についてプレゼンテーションを行いました。出江寛先生からは「間合い」が配慮されていないなどいつもの辛口な指摘を受けましたが、要所に若干建築家に期待する愛情が感じられました。フォーラム終了後、出江寛先生から建築について直接アドバイスを頂いたことはプレゼンターにとって貴重な経験になると思います。

■ 講演

「毛利家と重文旧毛利家本邸」

前毛利博物館館長 小山 良昌 氏

小山良昌氏は幕末から明治にかけて活躍した人々の掘り起こしを行っておられ、山口県各地の講演会に引っ張りだこの人気の高い方です。毛利家の遠祖から中国地方の雄となった戦国時代、外様大名としての江戸時代、本邸を防府市に移した大正初期と歴史的な流れとともに、明治・大正の建築技術の粋をつくして建設された旧毛利家本邸について、その上質な材料や贅沢な意匠を細部に渡って説明していただきました。話しかけるような独特な口調と丁寧な説明で参加した一般市民のみなさんにも満足していただけたと思っています。

■ エクスカーション

「毛利博物館／毛利氏庭園／英雲荘」

案内 前毛利博物館館長 小山 良昌 氏

午前中の講演に引き続き、午後から会員、一般市民のみなさんと毛利博物館（重文旧毛利家本邸）を小山良昌氏の案内で見学しました。豪華な殿様の本邸内部や国宝展示を見て廻りました。毛利家の歴代当主が祭られている画像堂を見学し、続いて英雲荘に移動し、防府市文化財課の方の案内で参勤交代の御茶屋の建物内部や庭を見て歩きました。大会最後のプログラムで疲れもピークに達していましたが、大変和やかな雰囲気で大会を終えることができました。



デザインフォーラム



小山良昌氏 講演



毛利博物館



エクスカーション

第5回 JIA中国建築大賞2013

■ 審査報告



JIA 中国建築大賞実行委員長 大石雅弘

「第5回 JIA中国建築大賞2013」はJIAの建築家憲章の理念『建築家は自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承、発展させ地球環境を守り安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。』に基づき中国5県に造られた作品のうち、優れた建築デザイン、建築文化や環境形成に寄与した建築作品を設計した建築家を顕彰致します。

応募建築作品は最近10年以内(2003年1月から2012年12月まで)に竣工した建築作品で一般建築部門・住宅部門の2部門とし、審査委員長は 建築家 内藤廣 先生、審査員は 建築家 倉森治 先生、建築家 錦織亮雄 先生にお願いしました。

応募は6月10日から7月31日まで行い、全国の建築家が

■ 総 評

審査委員長 内藤 廣
(建築家・東京大学名誉教授)

ときたま、わたしたちはいったい混迷の時代のどの辺りを過しているのだろう、と考える。まだまだ混迷は続くのか。いや、もうすぐ夜が明けるのか。それとも、いつも今を生きる人間にとっては、時代は混迷しているように見えるのか。3.11以降、漠然とそのようなことをよく思うようになった。東京という大都会に暮らしていると、時代はますます混迷の度合いを深めているように見える。一方で、中国建築賞の審査のように地方を駆け回ると、都会では見えてこないものが見えてくる。都会を離れた人々の暮らしは、しぶとく文化を生み出し続けているのである。暮らしがある以上、建築の文化は必ず命脈を保っていくはずだ。その営みは、これまでも生み出し続けられてきたし、これからもずっと続いていくものだ、ということを実感することができる。

□ 審査委員

審査委員長 内藤 廣 (建築家)
審査員 倉森 治 (建築家・JIA 名誉会員)
審査員 錦織亮雄 (建築家・JIA 名誉会員)

ら一般建築部門は10作品、住宅部門は12作品の合計22作品の応募がありました。

8月中旬に一次審査・書類選考を行い、一般建築部門は4作品、住宅部門は4作品の計8作品が現地審査対象作品として絞られました。

9月2日山陰方面、9月3日山陽方面の2日間にわたり、審査員による現地審査を行い、応募者立会いのもと建築主へのヒアリングも行われ、写真だけで分からない建築の本質についても審査対象としました。中国建築大賞の重みを実感する事となりました。

内藤廣 先生、倉森治 先生、錦織亮雄 先生による、厳正な審査の結果、一般建築部門・大賞1作品、特別賞1作品、優秀賞1作品、住宅部門・大賞1作品 優秀賞3作品が選ばれました。

10月25日、26日に開催されたJIA中国支部建築家大会 in 防府2013にて入賞者発表を行い審査委員長 建築家 内藤廣 先生の講評と大賞受賞者による作品説明を行いました。

応募・審査期間中、多くの方々のご協力、ご支援、ご配慮をいただき、この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。今後も「JIA中国建築大賞」が中国地方の社会的・文化的な発展を担うことを期待しております。

■ 受賞者作品リスト

- 一般建築部門 建築大賞
Peanuts (広島県)
設計者 前田 圭介 UID
- 一般建築部門 特別賞
倉敷物語館周辺再生整備事業(岡山県)
設計者 檜村 徹 (有)檜村徹設計室
- 一般建築部門 優秀賞
町屋Cafe&Dininnng恋しき(広島県)
設計者 今川 忠男 今川建築設計
- 住宅部門 建築大賞
大山の家(鳥取県)
設計者 大角 雄三
一級建築士事務所 大角雄三設計室
- 住宅部門 優秀賞
魚町の土蔵(島根県)
設計者 金坂 浩史
スタジオ・カナ一級建築士事務所
- 住宅部門 優秀賞
段々畑の家(島根県)
設計者 原 浩二 原浩二建築設計事務所
- 受託部門 優秀賞
クローバーハウス(鳥取県)
設計者 来間 直樹 クルマナオキ建築設計事務所

■受賞作品紹介

審査委員長 内藤廣
(建築家)

□ 一般建築部門 建築大賞

Peanuts (広島県)
設計者 前田 圭介 UID

「Peanuts」で一般建築部門で大賞を受賞した前田圭介さんは、「森のすみか」で2011年に住宅部門の大賞を受賞した。福山を根城に活躍の巾を広げている。いまや全国版の売れ線になりつつあるが、建築に対する取り組み方が変わらないのがいい。「Peanuts」は奇妙な建物である。写真で見たときは、これはゲテモノかと思ったし、木材を雨ざらしにしたディテールにも疑問があった。第一、写真と平面からでは、どこまでが外部でどこからが内部なのかも判然としない。ところが実物を見ると、それらは巧みに処理されていて、彼の気配りと建築的な意図に対するこだわりとが絶妙にバランスしている。けっして恵まれているとはいえない校舎の片隅のあの狭い場所に建物を建てるとしたら、周囲とうまく付き合うように有機的な平面を取るのはきわめて妥当な解決方法だ。また建物を隙間だらけにして外部を出来るだけ取り込もうとしたことにも納得がいく。壁で囲ったら小さな小屋のような空間になったろう。狭いが見通しがきいて、なにより子供たちにとって楽しく豊かな空間ができています。それが一番の成果だ。優れた作品だと思う。今後ますますの活躍を期待したい。



□ 一般建築部門 特別賞

倉敷物語館再生整備事業 (岡山県)
設計者 檜村 徹 (有) 檜村徹設計室

特別賞の「倉敷物語館周辺再生整備事業」の檜村徹さんの仕事は、いまさらあらためて評価するまでもなく立派なものだ。古民家研究会を率いて地道な研鑽を積んできた。この賞の初回である2009年に住宅部門で大賞をとった神谷昭雄さん、今回住宅部門で大賞をとられた大角雄三さんなど、このグループはいまやひとつの勢力になりつつある。これをこの地域の建築の文化と呼んでもいい。檜村さんは、倉敷を根城に丁寧な仕事を積み上げ活動を続けてきたが、今回のようにまとまって成果が見えるかたちになったのは初めてだろう。これまでの活動の厚みと今回の成果を高く評価し、特別賞を差し上げることにした。



□ 一般建築部門 優秀賞

町屋 Café&Dining 恋しき (広島県)
設計者 今川 忠男 今川建築設計

入賞の「町屋 Café&Dining 恋しき」の今川忠男さんも、丁寧な仕事を続けてきたひとだ。古い屋敷を街が買い取り、それを保存しながら必要な所を改修してレストランに仕立て上げた。これから各都市でこの手の保存と利用の事例が増えて行くだろう。その先鞭を切るもののひとつだろう。この建物の運営も含めてその成果を評価したい。



□ 住宅部門 建築大賞

大山の家 (鳥取県)
設計者 大角 雄三 大角雄三設計室

住宅部門で大賞となった「大山の家」の大角雄三さんは、昨年の「おかやま山陽高校記念館」、2009年の「黒谷の家」など、本賞の常連のひとりである。独特の空間のタッチは健在で、これまでのノーハウを洗練されたかたちでまとめあげている。とくに、縦のスリットを活かした立面は印象的で、土着的でありながら強い個性を表現する手法として大きな成功を収めている。外部空間との呼応の仕方も見事であり、機能的にも練り上げられた優れた建物である。古民家の改修を手掛けてきた成果がディテールの処理の巧みに現れ、新築の住宅の中で新しいスタイルを生み出しつつあることを感じる。



□ 住宅部門 優秀賞

魚町の土蔵 (島根県)
設計者 金坂 浩史 スタジオ・カナリー建築士事務所

「魚町の土蔵」の金坂浩史さんは、格式の高い旧家の土蔵を丁寧に住空間に作り替えている。二階の居間を跨ぐ古い大梁は圧巻で、建築的にこれと格闘して住まいに作り変えるのはたいへんだったと思う。今を生きる住まいでありながら、同時に長い歴史を背後に感じる重厚な空間を評価したい。



□ 住宅部門 優秀賞

段々畑の家 (島根県)
設計者 原 浩二 原浩二建築設計事務所

それとは対照的だったのが、原浩二さんの「段々畑の家」だった。中庭を抱え込んだような平面構成は開放的だが、手前の植栽の山が外部の通りを適度に遮蔽している。同時にその裏側に生み出された中庭が、この住宅の内部空間を支えている。ランドスケープ的手法が活かされている良い事例といえる。



□ 住宅部門 優秀賞

クローバーハウス (鳥取県)
設計者 来間 直樹 クルマナオキ建築設計事務所

来間直樹さんは2010年に「キナリハウス」が入賞、2012年に「ナカニワニワハウス」で大賞を獲得している。「クローバーハウス」は、縦長の中庭を設け、生活空間をこの中庭に向けている。前作同様、中庭に独特のスケール感がある。図面を見たときは、無理があるかも知れないと疑義を抱いたが、訪れてみると気持ちのよい開放的な空間を創り出すことに成功していた。



活動報告

■ 岡山地域会

□ 「建築見学会」 今川忠男氏・前田圭介氏

2013/5/24

前年度「文化と建築を考えるセミナー」で講演いただいた今川忠夫氏、前田圭介氏の建築作品を見学しました。地域とのつながりが人・物・時を通して建築に集約されていることを見ることができた。独自のスタイルが地域の形として、受け入れられている。新し住まい方や形がより機能の向上につながっていることや空間創造に成功していることなどを見ることができた。多くの刺激を与えられた。

□ 文化と建築を考えるセミナー

2013/6/21,8/23,10/18

地域で活動している建築家の仕事から見えてくる文化としての建築に学ぶことは意義深い。建築を目指す若い世代にとって大きな刺激やヒントになり得ると考え企画したセミナーです。

6月21日「自作について」江角俊則氏(島根地域会)はスローハウス・土間の家・松園・草庵など13件を紹介した。「闇を楽しむ」「陰影礼賛」「スローな時間」「神聖な部屋」などのキーワードで建築を語られた。また、「どろだんご」「来待石」「錆びた鉄板」「窯変瓦」などの地元の材料を使うことで表現を独自のものにしている。



8月23日「暮らしと場所をつなぐ」来間直樹氏(鳥取地域会)はハナミハウス・ナカニワハウスなど5件を紹介した。

「空間のつながりと暮らしのつながり」を場所と時間の概念で解説していただきました。他に舞台美術・劇場のギャラリーなどのかかわり多彩な活動をされています。



10月18日「倉敷の近代建築を知るー有隣荘大原孫三郎邸の建築表現」上田恭嗣氏(岡山地域会・ノートルダム清心女子大学教授)は、伊東忠太、薬師寺主計、児島虎次郎、大原孫三郎、小川治兵衛らとのかかわりについて、研究成果を聞くことができました。昭和初期の素晴らしい建築家の存在と活動により、岡山倉敷に建築文化が根付いていたことが判りました。



□ 山梨知彦講演会

2013/9/13

今回は山梨知彦氏お招きし、「木材会館、ホキ美術館、ユニシティ大崎を通して考えたこと」と題して講演をしていただいた。日常の現象や生活行動を観察し、新しい発想・アイデアとして建築に活かすことを基本としている。著名な建築家の話を聞く機会が少ないので、毎年若い人向けの講演会を行って、JIAの活動を広める機会としている。講演会には300名弱の参加があり、講演会後もサイン会、懇親会と、有意義な日となった。



□ おかやま建築5会+1まちづくり協議会

2013/11/9 ~ 11/16

建築関係6団体によるまちづくり協議会が実行委員会をつくり、「創造都市おかやま再生」を企画開催した。創造のまちづくりー学生によるワンデーエクササイズ、再生のまちづくりー延藤安弘+角田奈々子による幻燈会、わがまちの防災を考えるー岡山市中心商店街を会場とし第三回防災啓発イベントの3事業を開催した。いずれも多く的一般市民の参加があり、まちづくりのヒントを持ち帰ることができた。

岡山地域会会長 大石雅弘

■ 広島地域会

□ 「ヒロシマと建築家」

2013/11/23 ~ 12/3

「ヒロシマと建築家」展は、JIA日本建築家協会が公益法人として出発するにあたり建築家の活動の広さと深さを多くの広島の市民および広島を訪れる人々に知って頂くとともに、東日本大震災の被災地へ向けて、被爆70年にむけ平和都市広島から復興への応援メッセージを送りとどけようとするものです。焦土から立ち上がり平和都市の礎を築いた歴史認識にはじまり、白井晟一「原爆堂計画図」の模型と図面をご覧いただき白井哲学の教訓に学びたい、同時に被爆写真のヒロシマから受けた啓示的な磯崎新「ふたたび廃墟になったヒロシマ」の作品を展示し鑑賞する場を設けた会場は被爆建物の旧日銀広島支店、2013年11月23日のオープニングのシンポジウムでは御子息で建築家の白井イクマ氏の講演をいただき、パネラーは浜井順三氏と岡河貢氏と小生が努めています。巨匠丹下健三の都市広島のピースセンターのビスタのつづきの「広島を考える」機会として、平和大橋のイサムノグチの意図したこと、モダニズム建築の丹下健三のめざした都市像の再認識、平和の池の慰霊碑に祈り訪れる人々と聖地平和公園の緑とともにある軸線上の原爆ドーム・ヤンレツルの建築遺産とバッハゾーンの景観、河岸緑地、北側エリアのこれからの利活用、スラム整備事業の高層集合住宅群の前川国男の建築理念とこれからのあり様を探ること、広島は被爆の苦しみをのりこえて、美しいまちから歓喜する平和をイメージする都市の再生に向けて歩みつづけていきます。

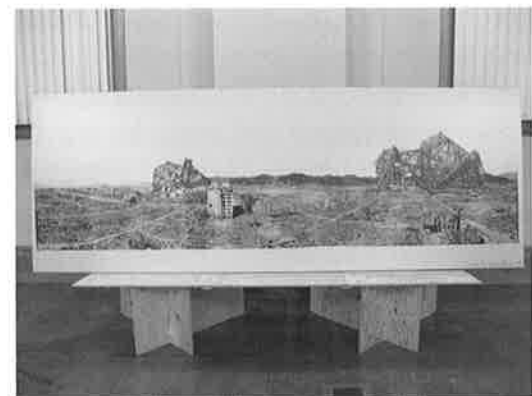
展示内容には、戦後の闇市の近くに出来た音楽喫茶で復興を夢いて語り原爆市長を支えた仲間のドラマの放映。地球上でこのような悲劇を二度と起こさないことが犠牲者への償いであり生き残った者の務めであると立ち上がり、「広島平和都市建設法」を実現した初代公選市長浜井信三の気概を受け継ぐ御子息の浜井氏に街づくりの情熱とともに示唆をいた



だきます、広島市民はこのような先人の努力を礎にして世界の恒久平和の実現を発信し理想の象徴としての都市をつくりつづける使命がありこれを共有する展覧会でもあります。

震撼した東日本大震災、災害の歴史は地殻変動の歴史であるとも言えますが、人災を無くし減災を図り「過ちを繰り返さない」の犠牲者の意思を伝承することが私たちにできることです。地域会は「子どもと創るエコシティ広島」「JIA98広島大会」「1995阪神大震災の支援活動」など地域に根差した活動を行っています、これからさらにどうあるべきかの視点に立った事業を致します、シンポジウムでの「ヒロシマと建築家」の参加者にいいことをやったね、と賛同の言葉をいただいています。広島県、広島市の後援、建築関係四団体の協賛、内外の来訪者に感謝申し上げます、最終日の12月3日は、松井一美広島市長に御来館いただき、建築家白井晟一の作品の鑑賞と解説に傾聴いただいています。以上がレポートです。JIA 会員、作品出展会員、岡河研究室の広大生、実行委員会の皆さんに感謝申し上げます校了とします。

広島地域会会長 垂井俊郎



■ 山口地域会

□ 萩のまちに住み続けること

本年1月に「明治日本の産業革命遺産」の日本政府推薦書がユネスコに提出されました。萩市の構成資産は萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾の5つです。今年度夏から秋の現地調査を含め、イコモスの審査を経て、来年の夏には登録可否が決定します。

現在、市域各地のおたから（文化遺産）の掘り起こし（再発見）をして、再評価・登録（デジタル化）・公開等活用に向けての市民活動を展開しながら、世界遺産登録への思いも盛り上がっています。

○萩の町並み

昨年はNHKのドラマや大手企業のCMの舞台にもなりました。来年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」は松陰の妹文が主人公となり、長州萩が舞台となります。3年前には、萩往還佐々並市が新たに国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、小さな町ながら全国最多の4ヶ所の重伝建地区を有しています。しかしながら人口5万数千人の萩市において、空き家が5千軒も現在する状況があります。空き家には価値ある古民家もたくさん在る一方、崩壊寸前で大変危険な状況の物件も在ります。

そこで萩市も一昨年、萩市空き家条例を制定し、危険な空き家の家主に管理義務を求めましたが、皮肉な事に多くの価値ある古民家の解体も進んだように感じられます。昨年度は浜崎重伝建地区内の特定物件も危険な状態のため、特定解除となりました。重要伝統的建造物に指定された物件が解体されるのは萩市においても初めての事です。

○「一般診断法」による無料耐震診断

一昨年度から山口県では、各地域で県の補助金により、民間住宅の無料耐震診断を行なっています。

山口県建築士事務所協会が、周防大島町から委託されて実施した25年度耐震診断調査業務報告書によると、13家屋の内12家屋が不適格となり、適合したのは1件のみの状況です。予想どおり「一般診断法」による耐震診断では、明治や大正期の古民家では特に厳しい結果となっています。

○萩つくる会の活動

萩つくる会はそんな萩の町並みや古民家を再評価し、つくりて（建築家・建築士・大工・左官等）の立場から、この萩の町並みに住み続けるための活動を実践しようと、12年程前に結成されました。これまで現場研修や技術研修を中心に活動していますが、現在少しずつ町並みが失われていく現状に危機感を持っています。そこで萩まちじゅう博物館古民家調査班の方々と協力し、古民家調査を行なっていますが、徐々にデーターを整理し、情報発信をレベルアップする予定です。

また、京都にある京町家作事組を中心に、全国各地で古民家再生などに取り組んでいるグループが結成している「作事組全国協議会」に加盟し、各地の仲間とも交流を深めています。そこで町並み先進地福岡県八女の町家再生ドキュメンタリー映画制作の取り組みを知りました。

○ドキュメンタリー「まちや紳士録」上映会

八女市は萩と同じように国の重伝建地区があり、継続的に町並み保存に取り組んでいます。そんな八女のとある町家にたまたま引っ越してきた映画監督伊藤有紀がいました。伊藤監督は八女の人々の町並み保存活動に感銘し、移り住んで1年間そんな人々の活動奮闘を撮り続けました。この映画は、繁栄の中で忘れかけている地域の遺産と日本人の心の本質を見つめ直します。

そこで、3月8日（土）に萩つくる会の特別公開事業として、まちや再生ドキュメンタリー「まちや紳士録」を萩ツインシネマ（萩の有志で支えられているコミュニティシネマ）で上映しました。この映画をとおして町並み先進地・福岡県八女の取り組みを知り、萩の町並みのこれからを多くの方々とともに考えるきっかけになればと思っています。

上映会には150名もの参加があり、多くの方々に映画を楽しんでいただくとともに“町家の再生についての思いを共有することができたのではと、実感できました。

萩にはまだ、まちじゅうに素敵な古民家がたくさん残っています。先人たちが残してくれたこれらを活かせるかは、今に生きる私たち次第なのかもしれません。

今後もうできるだけ多くみなさんと共に、萩の町並みの保存や古民家の再生などについて考え、行動していきたいと考えています。

山口地域会 三村夏彦

■ 島根地域会

□ 講演会「隠岐の住文化」

（JIA島根地域会・建築学会島根支所共催）
2014/1/25

隠岐の住文化について島根県土木建築住宅課の水津史朗氏による講習会がさる1/25に行われました。

隠岐勤務で島の自然や人情に触れることで島の文化に興味を持った水津氏は、図書館で見つけた「隠州視聴合記」との出逢いをきっかけに本格的に隠岐の文化史を調べ始めたそうです。

著者は松江藩士の斉藤勘助で、隠岐郡代として渡島した折に土地の古老や社寺から聞き書きして記したとされ、隠岐の島の地誌としては現存最古のものです。

世界ジオパークにも認定されている隠岐島の独自の生態系や文化ですが、中でも隠岐造りは建築史や民族学的見地のうえからも大変興味深い建築様式で島後だけで300軒近い古民家が確認されています。

隠岐造りの大きな特徴は、「複数の出入り口」がある、「座敷が鍵型に配置」されている、「大差物・土台」を多用している事などがあげられます。

代々庄屋を務めてきた佐々木家の古民家には大戸口（一般人用）、中戸口（役向き用）、表玄関（冠婚葬祭用）の三つの役割の違う出入り口があります。

隠岐国造り、国司、玉若酢命神社宮司を務めた億岐家でも「上玄関」「下玄関」「大戸口」と分かれており、行事や階級によって使い分けられていました。

大型農家の暮らしぶりを伝えている樋野家、後鳥羽上皇の墓守をしていた村上家、戦国武将隠岐氏の家来であった斉藤家、それぞれ立場が異なるものの、基本的に共通する隠岐造りの様式が見られます。

水津氏は、「隠岐造りは広く一般化し、今なおその名残りを留めている。隠岐の古民家には生きていく上での作法が当時のまま投影されており、秩序が保たれる事を重んじ、自然を畏れ敬いながらその恵みに感謝し神々を厚く信仰して生活する姿が見えてくるようだ。住民・事業者・行政が一体となって保存と活用に向けた取り組みを、地域復興策の一環として捉え直すべきではないだろうか。」と述べられました。

「隠岐の民家と町並み保存について」

島根大学建築生産設計工学科教授の安高尚毅氏からは自らの研究から見た総合的な隠岐の町並みの状況や、課題についての考えのほかに、隠岐の民家が記述されている著書の紹介がありました。

島根地域会 原浩二

□ 『レクチャー&パーティー』

「環境が生み出す人のつながり」 前田圭介氏
（JIA島根地域会・出雲建築フォーラム共催）
2013/11/9

出雲の豊かな建築文化創出を目指して、出雲建築フォーラムの新たな活動として今季より『出雲建築フォーラム レクチャー&パーティー』を開催する運びとなりました。活躍している建築家を講師として出雲にお招きし、堅苦しい講義形式の授業ではなく、皆で食事を囲みながら和やかな雰囲気の中で講師の方のお話を聞き、建築論議を深めようというのが活動のねらいです。

第1回目のゲストとして、同じ中国地方を拠点とし広島で活躍中の若手建築家・前田圭介さんにお越しいただきました。1部のレクチャーでは「環境が生み出す人のつながり」をテーマに、代表作であるアトリエ・ビスクドール、自身の事務所である森×ハコ、聴竹居@鞆の浦の改修等について計画段階から現場の様子まで、スライドを流しながら詳しく紹介して頂きました。

2部からは、地元野菜を中心としたメニューの食事をとりながら参加者と講師の前田さんの間に垣根はなく、参加者の一人がギターを取り出し皆で歌を歌うなど予想以上にアットホームな親睦会となりました。皆がフラットに話したり質問したりできる場となったところで、急遽現在進行中のプロジェクトに関する追加レクチャーまでしていただきました。前田さんの活動は既存概念に囚われず、日本に止まらず、参加者は同じ地方を拠点とする建築家として一念発起勇気付けられたことと思います。

この日前田さんは家族4人でいらしており、会場の古志古民家塾で宿泊して頂きました。後に、「普段家族とあまりゆっくり過ごせないなので、子どもたちとのんびり“出雲時間”を体験できて良かったです」とのコメントを頂きました。次なるゲストをお招きして今後もこの活動を続けたいと思います。

島根地域会 江角俊則



出雲市 古志古民家塾にて

■ 鳥取地域会

□ 米子建築塾 まちトーク vol.7

西村浩「マチの再生の思考は何をもたらすのか？」

2014/3/29

米子市を中心に活動する建築家で構成される米子建築塾では、昨年度から「まちトーク」というトークイベントを企画、開催してきた。このトークイベントは建築やデザイン、まちづくり等の各分野の第一線で活躍される方々を講師にお招きしお話を伺い、ディスカッションすることで米子の建築やまちづくり、社会環境を参加者と一緒に考え、今後の米子のまちが活力あるより豊かな場所となることを目的にしている。

<http://www.yonagokenchikujuku.com/>

7回目となる今回は JIA 鳥取地域会との共催となり、講師は、建築家 西村浩さんをお招きした。西村さんは、376 案の公募作品のなかから選ばれグッドデザイン大賞を受賞した岩見沢複合駅舎の設計者として、また土木の出身で、新しいタイプの建築家としても注目されるお一人である。

2 時間を越える熱のこもったお話では、主に岩見沢複合駅舎と出身地でもある佐賀の中心市街地のユニークな取り組みが紹介された。現在米子では長い議論の末、JR 米子支社の耐震化に伴う米子駅の南北通路の設置、橋上駅化に市長が事業着手する方針を明らかにしたところであり、また、長く中心市街地の活性化にも取り組んでいる。この二つの事例を伺うことが出来たのは、参加者にとってまたとない機会となった。

岩見沢複合駅舎は JR 北海道岩見沢駅と市の施設であるセンターホール、大学のサテライト、テナント店舗、駐輪場、自由通路等で構成される複合建築である。筆者も実際に拝見する機会があったが「変わらない価値をもつ駅」という命題を受けデザインされたこの建築は、プログラムやプランニングから個々のディテールに至るまでたいへん良く考えられたものであり、優れた建築として感銘を受けるものであった。しかしながら、西村さんのお話の本題はこの建築がつくられる過程から竣工後数年経った現在まで続く市民参加による「コト」についてであった。一つの「モノ」としての建築を戦略ある仕掛けとして考え、様々な人々の交流が生まれ「コト」が起こり、さらにマチの再生への循環につながるということであった。

続く佐賀の中心市街地再生では、建築の話は殆どでない。中心市街地の虫食い上に増えていく青空駐車場に着目し、周縁部に整備した公共駐車場と利用権の交換を行うことで民地のまま公共空間化、緑地化し「原っぱ」としていく。自動車の流入が減少し、緑地の隣接地の価値があがることで、そこに住みたい、商売したいという動機が生まれるという。空き地が増えるとマチが賑わうという魔法のような話である。

これを実証するための社会実験「わいわいコンテナ」プロジェクトが行われ、現在も継続中である。実際に飲屋街であったエリアに変化が見られ、良い循環が生まれているようである。

二つの話に共通していることは、50、100 年後の未来に向けて考え続ける姿勢と、まちづくりにおいて、市民の自発的な動きをいかにつくり「モノ」「コト」「ヒト」「カネ」が繋がっていくことが大切で、それに対し建築家の役割はどうあるべきかという提言であった。話の内容と共に時折笑いを交える話術、プレゼンテーション力に圧倒され、不思議な高揚感を味わった 2 時間半であった。

鳥取地域会 来間直樹



■ JIA 全国学生卒業設計コンクール 報告

□ JIA 全国学生卒業設計コンクール 2013

2013 年 6 月 29 日、30 日、新宿アイランド南棟地下アクアプラザで、JIA 支部・地域会から推薦された、卒業設計作品 52 点が展示され、29 日に北川原温審査員長、今川憲英氏、野口秀世氏、妹島和世氏、平田晃久氏の審査員により、公開審査が実施され、一次、二次、三次の審査により、金賞、銀賞、銅賞、各審査委員賞が決定された。翌、30 日まで、出品作が同会場に展示された。

中国支部から下記 4 点が支部優秀賞を受賞して出品されたが、残念ながら入賞が適えられなかった。

- ・河野 祐樹（近畿大学）
ごみ美術館 ―見えなかったものを見る―
- ・権藤 昂子（広島女学院大学）
この街の空の下で
- ・川口 祥茄（広島工業大学）
遊びの場と学びの場 ―こどもたちに贈る小さな小学校。まちに贈る大きな公園
- ・溝口 綾乃（岡山県立大学）
子どもの国 ―御南子どもの国の提案―

□ 2014JIA 学生卒業設計コンクール中国支部優秀賞

2014 年 3 月 14 日、広島工業大学にて、広島 8 大学卒業設計展が開催され、倉方俊輔氏の司会で、北山聖審査委員長、武井誠氏、吉村靖孝氏の審査員により、公開審査が実施され、下記 3 点に、支部優秀賞を授与した。

- ・中村健太（近畿大学）
TRANS ARCHTECTURE 変容する建築―海に浮かぶ建築―
- ・青戸貞治（近畿大学）
技紡ぐ里―たたら製鉄継承のためのプログラムの提案
- ・中島大輔（広島工業大学）
人々の行為を浮かび上がらせる建築―建築内ランドスケープ―

2014 年 3 月 6 日 岡山県内建築系教育機関の卒業設計作品から（一社）岡山県建築士事務所協会主催の卒業作品表彰選考会で選出された最優秀賞に、JIA 中国優秀賞を授与した。

- ・東居優典（岡山理科大学）

Town Campus

全国学生卒業設計コンクール委員 山田孝延



■ 環境×建築セミナー 2013 基礎編 開催 （JIA 四国・中国支部主催）

今省エネ法改正に伴い、地域に根ざす建築家の職能的実践力と地域の力をつけるために「環境×建築連続セミナー」を企画し実践しています。2013 年度は基礎編とし、別記の様な内容で実施しております。2014 年度は実践編とし、7 月より開催予定で現在企画しております。後日御案内申し上げますので、皆様の参加をお願いします。

JIA 環境行動ラボ委員 大角雄三



■ 中国支部会員リスト

平成26年3月末 現在 147名

＜岡山＞(50 名)
赤木定, 赤澤輝彦, 石原節夫, 岩本弘光, 上田恭嗣, 宇川民夫, 大石雅弘, 大角雄三, 大瀧珠乃, 神家昭雄, 神田二郎, 岸本泰三, 貴田茂, 木村旭, 倉森治, 黒川隆久, 佐々木満, 佐藤正平, 佐野宜夫, 柴田晴夫, 芝村満男, 塩飽繁樹, 新谷雅之, 菅野憲, 高田一, 武田賢治, 武村耕輔, 塚本雅久, 土田利行, 寺越則人, 中桐慎治, 中田利幸, 樋村徹, 中村陽二, 丹羽雅人, 花田則之, 平山文則, 藤澤敏典, 藤田佳篤, 松下大輔, 丸川真太郎, 宮崎勝秀, 森原通仁, 柳勝巳, 山田孝延, 山田暁, 山名千代, 湯浅康生, 渡辺俊雄, 和田洋子
＜広島＞(50 名)
石田平二, 今川忠男, 岩本秀三, 遠藤吉生, 大江弘康, 大旗健, 大旗祥, 岡河貢, 沖本初, 奥迫眞一, 奥田實, 梶本正博, 河口佳介, 久保井邦宏, 高畑憲明, 後藤亜貴, 境郁生, 佐々木著, 三分一博志, 杉田輝征, 高志俊明, 高橋幸子, 瀧口信二, 竹内謹治, 谷尻誠, 垂井俊郎, 千原康弘, 堤敏明, 土井一秀, 土井良介, 東宮年一郎, 土肥晶仁, 仲子盛進, 中蘭哲也, 奈波和明, 錦織亮雄,
西田一好, 濱田昌範, 平田欽也, 藤本和男, 藤本寿徳, 堀江淳, 前岡智之, 前田圭介, 正木繁康, 三島久範, 宮野鼻啓二, 宮本剛, 元廣清志, 八納啓造
＜山口＞(18 名)
内田文雄, 久保紳哉, 窪田勝文, 栗林隆, 佐田祐一, 田尾繁, 田中輝幸, 谷川清志, 中村正俊, 長野英彦, 永見龍一, 西村彰和, 原川伸二, 松寄強司, 三村夏彦, 村重保則, 山下宏, 山根満広
＜島根＞(22 名)
石倉保富, 江角彰宣, 江角俊則, 尾川隆康, 小草伸春, 金坂浩史, 亀谷清, 白根博紀, 僊石友秋, 田原辰男, 寺本和雄, 原浩二, 古山篤史, 増野元泰, 松倉慎治, 三原貞則, 村上修二, 矢田和弘, 矢野敏明, 山根秀明, 渡部孝幸, 渡邊元文
＜鳥取＞(7 名)
杵村優一郎, 木下正昭, 来間直樹, 小林和生, 塚田隆, 戸井茂, 萬井博行

■ 交流部会会員リスト

平成26年3月末 現在 25社

コクヨマーケティング㈱, 三協立山㈱, 三和シャッター工業㈱, 三建設備工業㈱中国支店, 大光電機㈱広島営業所,
中国共和メンテナンス㈱, 中国電力㈱広島営業所, 東芝エレベーター㈱中国支社, T O T O ㈱中国支社, ㈱ノザワ広島支店,
㈱日立ビルシステム中国支社, ブリヂストン化工品西日本㈱中国支社, ㈱松岡製作所, 三菱電機ビルテクノサービス㈱中国支社,
パナソニック㈱エコソリューションズ社, 小松ウオール工業㈱, ㈱総合資格, カワノ工業㈱, ㈱ハウジング山陽, ㈱ LIXIL 中国支社,
大和重工㈱ 広島営業所, DIC ㈱大阪支店, ㈱鹿島技研, ㈱中建日報社, 土江建材 T・K ポルト



The Japan Institute of Architects

アニュアルレポート（支部活動報告書）中国 2013

— 発行 —

平成 26 年 4 月

— 制作 —

公益社団法人日本建築家協会中国支部

〒730-0013 広島市中区八丁堀 5-23 オガワビル

TEL (082) 222-8810 / FAX (082) 222-8755

URL <http://www.jia-chugk.org>

— 表紙 —

株式会社松岡製作所（交流部会）

専務取締役 松岡 剛

— 印刷 —

（有）アウルズコーポレーション

a n n u a l r e p o r t